



たもんじ交流農園 便り Vol.87

2025年6月号



6/1(日)田植え&お団子づくりWS開催!



たんたんタンボに田植えする

今年も、「たんたんタンボ」の田植えをしました。「苗を指と指の間に縦に挟んで持って、まっすぐに植える」という水口アドバイザーのご指導のもと、3つの階層の「たんたんタンボ」に各15苗を、来園した子供たち他に田植えしてもらいました。お米が炊けるほどの量の収穫は難しいですが、秋に向けて生育を見守っていくことが楽しみです。

続いて今度は坂本さんのご指導のもと、「団子作りのワークショップ」が始まりました。もち米を蒸かし、アツアツのお餅を臼に移して、杵で突きます。農園では年末恒例イベントではありますが、お子様はもちろん、結構な大人の方も初体験の方が大勢いらっしゃり、人生初の「お餅つき」を体験頂きました。

突き立てのお餅を今度は、みんなでコネてお団子にし、「みたらし」「あん」を掛けて完成。大きさの違いはご愛敬、出来立てのお団子をおなかいっぱい味わいました。そして仕上げは「寺島茄子之介音頭」の練習会! 食べて踊ってと、盛り沢山のイベントを堪能しました(末林記)。



3層構造のたんたんタンボ



イネの持ち方を指導



新しく買った蒸し器は好評



餅つきが初めての方も



割り込みはダメですよ

田植え&お団子づくり WS に参加して 特別ゲスト 小宮英之さん(足立区扇で代々農業を営む)



本日は、大変お世話になりました。皆川さん、安倍ご夫妻の働きかけのおかげで、今回、何うことが出来ました。様々な方が管理されている畑を拝見したり、画家さんに絵を描いて頂いたり、1時間滞在の予定があつという間に午後となりました。

皆さまがご用意くださったお団子もいただき恐縮です。やわらかく、香ばしく、とても美味しかったです。たもんじ交流農園の方々が創り上げてきた貴重な体験の場に受け入れてくださり、大変感謝いたします。

私は、足立区の扇という場所で農業を営んでおります。特に田んぼは、祖父の代から地元の小学校の体験授業の場となっており、5年生の児童約100名が田植え、稲刈りを体験しています。

今年は、はじめての試みとして、皆川さん企画の田植えイベントを実施しました。たもんじ交流農園で活動されている方も何名か参加して頂きました。参加された皆様には楽しんで頂けたようでホッとしています。9月中旬以降には、皆さんが植えて下さった箇所

でイネ刈りを行って頂く予定です。

私の勝手な思いなのですが、たんたんタンボと扇の田んぼとが補い合えたらよいなと思っています。扇の田んぼで田植え体験が出来一方で、田植え後のイネの成長過程を時々見に来ることは現実的ではありません。ですが、少なくとも農園の方はたんたんタンボがありますから、成長過程が観察できます。たんたんタンボのイネが穂を实らせた頃、扇の田んぼでも稲刈り体験が実施されるというのは、とても良い流れだなと思っています。

ワクワクが止まらない！5/25 ゴパン作り教室参加！

ハッピースマイル㊦ファミリー・キッズ専門地域イベントプロデューサー 皆川未来



5月25日(日)、待ちに待ったゴパン作り教室が開催されました。朝からワクワクしながら会場に向かい、到着するとすでに参加者の皆さんが集まり、和やかな雰囲気になっていました。今回の教室には、親子あそび『元気いっぱい』の家族を中心に、約7組とたもんじ交流農園の農園部の方が参加。親子で楽しみながら学べるイベントということで、皆さん楽しみにされていました。



皆川さんと菅谷講師

まず最初に取りかかったのは、お米の準備。「ゴパン」とはその名の通り、お米を使ったパンのことで、普段食べるご飯とはまた違った仕上がりになるのが特徴です。参加者は前から水に浸して準備してきたお米と水の量を計り準備を整え

ました。その後、講師の菅谷さんの指導のもと、お米をパン生地へと変えていく工程へ。パンを丸める作業は、お子さまに大人気！「ふわふわして気持ちいい！」と夢中になっている姿がとても微笑ましく、会場は楽しそうな笑い声でいっぱいになりました。生地がまとまったら、次は焼きの工程。フライパンで約15分～20分焼くことで、香ばしく仕上がるということで、みんなでワクワクしながら見守ります。こんがりとした焼き目がつくと、いよいよ試食の時間！「思ったよりももちもちしてる！」「お米なのにパンになってる！」と驚きの声があがり、自分たちで作ったゴパンの美味しさに感動の瞬間でした。

講師の菅谷さんは、とても気さくで親しみやすく、どんな質問にも丁寧に答えてくださる方でした。材料の組み合わせや工程の意味を分かりやすく教えてください、子どもたちだけでなく、大人も学びの多い時間となりました。あっといふ間の楽しい時間が過ぎ、「また作ってみたいね！」と話す姿が印象的でした。初めてのゴパン作り体験は、学びと美味しさ、そして笑顔にあふれた素敵な一日となりました。



“寺島なす”に興味津々!?二寺小で「苗植え出前授業」!



90年振りに復活した“江戸東京野菜「寺島なす」”、未来を担う子供達に、“寺島なす”の命をつないでほしい!5/21(水)、坂本さん、平田さん、皆川さん、それに高橋ゆう子さんとで、第二寺島小学校の2年生約90名の子供達に“寺島なす苗植え”の出前授業を行いました。

まずはクイズ大会で大盛り上がり!みんな



寺島茄子之介が登場 元気いいなあ。そして、「寺島茄子之介」が登場し、“寺島なす”のお話です。江戸時代、東向島/鐘ヶ淵周辺(旧寺島村)は緑あふれる農村地帯で、小ぶりで甘くておいしいなすが沢山作られており、地名から“寺島なす”と呼ばれ、江戸の庶民から將軍様まで大人気でした。しかし、関東大震災で焼け野原となり、その後宅地化が進み、農地/農家がなくなって、一時は滅びた～幻のなす～“寺島なす”が見事復活するお話を、興味津々に聞いてくれました。さあ、お待ちかねの苗植えです!プランターに土を入れて、苗を植えて、支柱を立てて、お水をたっぷりやります。みんなみんなやりたがる。ワイワイがやがや、子供達が真剣に一所懸命、土に触れて、緑を生かして、大喜びしてくれるのは本当に嬉しい!

沢山たくさん実がなって、“寺島なす”の美味しさを皆で味わってほしい。お家のプランターでも栽培してほしい!墨田区名産江戸野菜“寺島なす”の輪が、もっともっと広がると嬉しいなあ。(小川記)



寺島なすを知っている人、ハイ!



苗を植えて支柱を立てる

環境フェアに出展!「すみ里プロジェクト」他をアピール



初日の朝礼には、山本区長も参加し気合を入れて頂く

6/14(土)15(日)の両日、すみだ環境フェアが、錦糸町オリナスにて開催され、てらたま協議会は好立地のブースで「すみ里プロジェクト」をテーマにフルに参加、お子さまを含めた延約 750 名の方にお話しを聞いて頂きました。新キャラクター「さとやまカエル」君の似顔絵描き(見本のイラストは田村画伯に描いて頂きました)で、お子さまの心を掴むと共に、親御さんや路行く人に「すみ里プロジェクト」「御前裁畑プロジェクト」「寺島なすクイズ」「寺島なすとたもんじ交流農園のお話」「てらたまカルトクイズ」等 6 つのコンテンツを 30 分毎に紙芝居風のスライドを使い次々とプレゼンし、足を止め聞き入って頂く方もチラホラと、すみ里プロジェクトの目指す姿、てらたま協議会の活動内容を強烈にアピールすることができました。(末林記)



さとやまカエル君の似顔絵で人を集め



佐々木さん、小川さん、高田さんが次々にプレゼンし、聞いて頂く



茄子帽子の市川さん



肩に力が入る牛久さん



ゆうこさんは人形劇で



クオリティが高い似顔絵



カエルくん本人も登場

“てらたま農園部から”

第 42 回～菌ちゃん畝で寺島なすの栽培 3 年目～



パーゴラの様子

全体に日陰を作ること。既に多聞寺さんの庭にある竹を伐採してパーゴラを作ってもらっています。あとはグリーンカーテン用のスイカとバタフライピー（蝶豆）を育ててパーゴラ全体に枝を広がらせること。天空に浮かぶスイカを思い浮かべ捕らぬ狸の皮算用をしております。

そうそう、菌ちゃん畝にはウズラの卵のような不思議なキノコが出ていましたよ。

テンで共有区画



多聞寺さんで竹伐り
(寺島なすの支柱用)



手前右端にスイカの苗



謎のキノコ
菌糸が見えますか？

てらたま協議会定期総会: 6/28(土) 15:00～(於牛久工務店) 懇親会: 18:00～ **水口アドバイザーご指導日:** 7/6(日)・8/10(日) 各 10:00～15:00 **寺島なすのタベ:** 7/17(木) 18:00～(於両国レガート) 寺島なすイタリアンフルコースを頂きながら大竹道茂江戸東京野菜コンシェルジュ協会会長のお話と田辺一乃真打の講談をお楽しみ頂く会(申し訳ございません既に満席となりました) **わいわいおしゃべりタイム:** 7/20(日) 10:30～ **農園部作業日:** 毎週日曜 8:30～ **寺島なす料理教室+江戸東京野菜のお話:** 8/3(日) (於梅若橋コミュニティセンター)

はじめました!!

第3回 石田裕人さん(区画3-1①)の場合



今年度は、私も含め同級生、同学年の仲間が、みんな古稀を迎えます。本当に、月日の流れるのは、早いと感じています。そして、このタイミングということなのでしょう、小学校、中学校の同学年の幹事が同窓会を企画してくれました。それなので、私もいい区切りなので、久々に同窓会に参加することにしました。中学校は、卒業してから初めての参加でした。小学校は、コロナ前に参加した記憶があります。幹事をしてくれた方々には本当に感謝です。頭が下がります。



それぞれの会は、本当に楽しかったです。半世紀ぶりに合う仲間がほとんどでした。参加者も同学年で50名ほどでした。なかなか思い出せないことばかりで、覚えていることがよみがえると各々盛り上がりました。覚えていないことが多くて本当に困りました。人によって覚えていることが違うので、それが共有出来て楽しかったです。二次会、三次会と、さらに昔話に花が咲いたのもよかったです。

古稀ということもあり、小学校、中学校の幹事の方々が、「これが最後です。次は、だれかお願いします。」と挨拶していました。さあ、次はあるのか。ともかく、今年の同窓会は終わりました。数人ですが、地元でまだ暮らしている方もいることが分かったことはうれしかったです。それなので、今後連絡を取り合おうということになりました。最近はじめたこと、それは旧友たちとの連絡です。はじめたばかりの事です。連絡を継続的のとれるかどうかはこれからですが。

農園部の新メンバーご紹介

高橋 智恵子さん



5月から参加した高橋智恵子と申します。きっかけは消防団仲間である石井みどりさんからの誘いでした。まさか墨田区のはずれの入り組んだ路地の奥に「農園」が拓かれてるとは夢にも思わず、初めてここに訪れた時はびっくりしました。ちょうど5月ということもあり「新緑の美しい季節の朝に緑や土に触れるのは気持ちがいいな…」という本当に軽い考えでしたが、わずかな時間の中での農作業のひとつひとつに、いくつもの学びと発見があり、素晴らしい濃い時間を過ごさせて頂いております。「皆さん本当に植物のことをよくご存じだなあ。そして、自然というのは全く上手くできてるんだなあ」と毎回驚愕してやみません。

この農園でやりたいこと、というか、昔からずっとやってみたかったのが「簞(ぼうき)をつくる」こと。実際に関東のこの農園が向いているのか、どのくらいの株を植えないといけないのか、そもそも現実的なことなのか、皆目見当もつきませんが、「簞草(コキア?)を植えて、実(とんぶり)を取って美味しく食べて、乾燥した枝で簞を作って、それで部屋をキレイに掃除する」が、私の大いなる野望です。今は神保町で事務の仕事をしておりますが、目が疲れるPC作業が多いので、この農園の花や緑をぼーっと眺めているだけでも、素晴らしい癒しとなっております。

こんな私ですが、皆さま、これからどうぞよろしくお願ひいたします。

シリーズ『江戸の食生活と野菜たち』～第4回～ 農園アドバイザー水口均



この食生活が野菜の摂取不足(ビタミン不足)となり、鳥目と脚気が江戸の流行り病(江戸煩い)といわれる所以となりました。精米技術が低く玄米に近い状態で食べていた時には糠に含まれるビタミンでなんとか間に合っていたということでしょう。

さて、江戸には参勤交代により日本中の野菜(種)が集まり、また全国へ広まっていたのですが、代表的なものとして滝野川ゴボウがあります。日本の伝統ゴボウのち八割以上が滝野川ゴボウを親としているとされています。代表的なのが京都の「堀川ごぼう」でしょう。捨てられたゴボウを二年越しで収穫したところ太くておいしいゴボウとなった。といわれていますが、この捨てられたゴボウがそのころつくられていた滝野川ゴボウということ。ちなみに江戸の二大ごぼうといわれたのが「滝野川ゴボウ」と「砂村ゴボウ」

ですが「砂村ゴボウ」は作られていた地名からそう呼ばれていただけで品種としてはありません。砂村は今の江東区北砂のあたりのことを指します。(第5回に続く)

たもんじ交流農園便り

No.87 般 2025.6.25 発行

題字 田村風来門

編集 末林和之



てらたま協議会

(NPO 法人 寺島・玉ノ井まちづくり協議会)

問い合わせ先 小川 剛(080-3421-3115)

▲セブン-イレブン記念財団 (2018年2020年に助成金を頂きました)

